

# ごみゼロネット推進会（第14回）議事録

開催日： 2009年（H21年）9月14日（月）10:00～12:15

場所： ウエスト

出席者： 大橋、加賀谷、伊藤、杉本、桐生（作成）

議題：

## 1. カーボンアドバンテージについて（大橋）

- 「グリーン革命」(“Hot, Flat and Crowded”著者 Thomas L. Friedman) より、カーボンアドバンテージ概念を説明。「カーボンニュートラルに甘んじていては駄目だ。カーボンアドバンテージでなければならない」との著者の熱い想いを示す文章を披露した。
- 「家庭ごみ」はカーボンニュートラル概念により ICPP では CO<sub>2</sub> 排出量算定に加えていなかったが、昨年「家庭ごみ」の中の「プラスチック類」は CO<sub>2</sub> 排出量に加えられた。（プラスチック類は化石燃料と同じ扱いになった）
- ごみを資源化した場合がCO<sub>2</sub> 削減になるとのカーボンアドバンテージは未だ ICPP の算定ルールに現れていない。（未だ算定の対象となるほどの数量に達しないためでなかろうか）
- 堆肥化の過程で発生する N<sub>2</sub>O や CH<sub>4</sub> は CO<sub>2</sub> よりも桁違いに温暖化効果が大きい。次回の例会で、具体的な説明をしたい。

## 2. 久喜宮代衛生組合のHDMの紹介（大橋）

Impressにより詳しく説明した。以前、江原製作所の設備を使って、強烈な悪臭のため失敗している。

それなのに原理的には同系列のHDMで実用化している。臭気の問題は全く解決したのか、検証したい。

1トンの処理にはほぼ 50 m<sup>2</sup>のスペースを必要とする。

小金井市の6,000トン/年（日量約 17トン）なら850 m<sup>2</sup>になる。数値的には現実性がある。

## 3. 紙媒体から電子媒体への転換による「ごみ減量の勧め」（大橋）

アマゾンやソニーの電子ブックの紹介と、その将来性についてのコメント。（省略）

## 4. 11月のかんきょう博ごみ部会主催のフォーラムでの役割分担（伊藤）

出席者で討議の結果、次のように仮決定した。

中平：コーディネータ兼「ごみの科学・ごみ処理のポイント」と「各家庭に応じた各種ごみ処理機の紹介」

大橋：「地域別に業務用生ごみ処理機を設置して一次処理」と「生ごみ分別回収の現実的普及政策」と「久喜宮代衛生組合の成功例の紹介」

伊藤：「生ごみの堆肥化／どうやって農家に使ってもらうか、分別収集参加者へのインセンティブの工夫、環境の悪循環から良い循環への転換、等」

加藤：「雑紙の資源化」

桐生：「ごみの非焼却や資源化／炭素化、亜臨界、減圧高速発酵、BTL」

以上

次回打合せ 日時： 10月5日（月）10:00～12:00 / 場所： ウエスト

